

# 最初に 家庭の備えから

自助

「防災協働社会」としても  
実感のないのが現状です。  
まずは一人ひとりのできることから。  
大地震に備え、個人でできる準備について  
まとめてみました。



## いつ起こってもおかしくない大地震

日本列島の太平洋側では、プレートの潜り込みによる地震がくり返し起こっています。過去の記録によると、静岡から四国にかけての沖合では、100年から150年周期で、ほぼ同じ規模の大地震がくり返し起こっていることがわかりました。

ところが、東海地震の震源となる駿河湾から御前崎沖では、1854年の安政東海地震の後、約150年にわたって大地震がないのです。このため地震のエネルギーが蓄積され、プレートの歪みが限界に達しているといわれています。

東海・東南海運動地震が発生した場合、建物の全壊棟数は約10万棟、死者数は約7万人と予測されています。阪神・淡路大震災の死傷者を上回る大きな被害です。

### 地震が起きた地域と年代



### 想定東海・東南海地震 主な被害予測結果

想定項目	東海・東南海運動地震(想定M8.2)
建物被害	全壊棟数 約98,000棟 半壊棟数 約230,000棟
火災(18時)	出火件数 約1,200件 焼失棟数 約49,000棟
人的被害(冬 平常時)	死者数 約2,400人 負傷者数 約66,000人
帰宅困難者数	約880,000人
避難所生活者数(1日後)	約780,000人

※「想定東海地震・東南海地震被害予測調査報告書(平成16年3月)」より

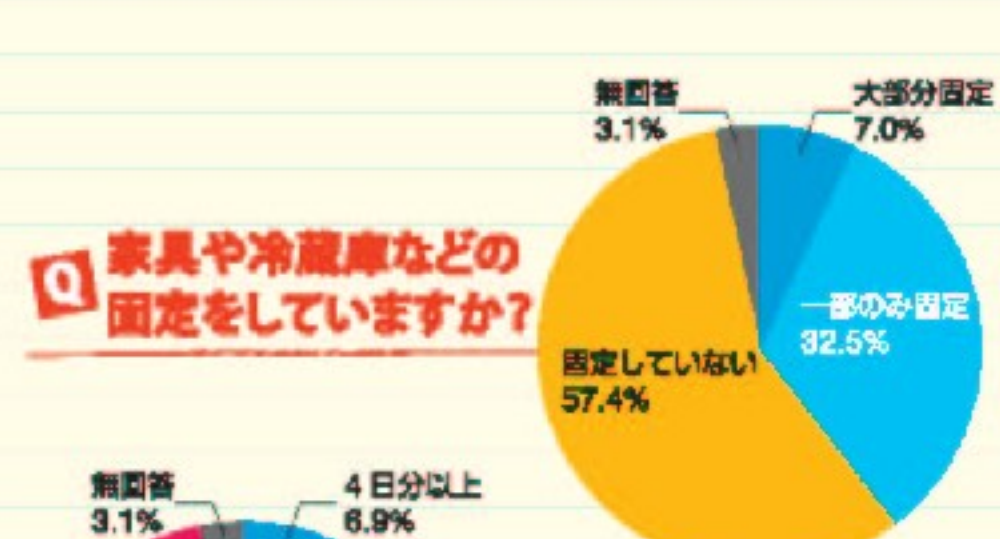
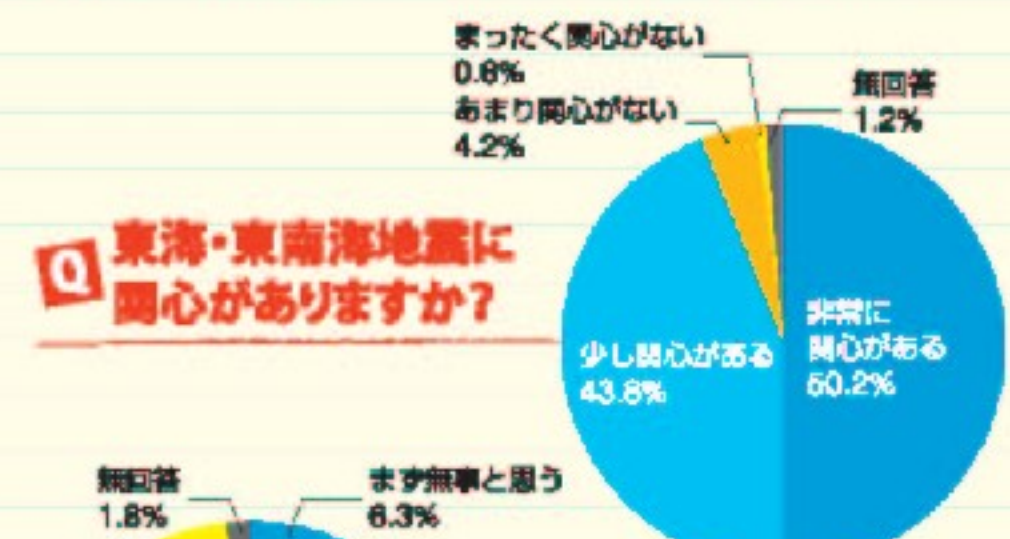
## 高い関心、甘い備え

県民意識調査結果より

愛知県では、県民のみなさんの防災意識や防災対策の実態を把握し、今後の地震防災対策の基礎資料を得るために、定期的に「防災(地震)」に関する意識調査を実施しています。

調査結果によると、東海・東南海地震に関心があると答えた人は94%と高く、実際に地震が起きた場合、自分が死んだり大けがをすると答えた人も63%に上り、地震に高い関心を持っていることがわかりました。

しかし、家具を固定していない人は全体の57%にもなりました。理由は、面倒だから、方法がわからないから、などでした。また、食料についても、必要といわれる3日分以上の備蓄をしている人は全体の28%と、3割を切っています。食料や飲料水の確保は「コンビニやスーパーで買う」「市役所や役場などに頼る」と、他者頼みの姿勢が明らかになりました。



数値は、愛知県が毎年実施している「防災(地震)に関する意識調査」について、最新の3回分の結果を平均したものです。

# 「大地震 守れてますか 自分の家族」 平成19年度防災標語 優秀作品

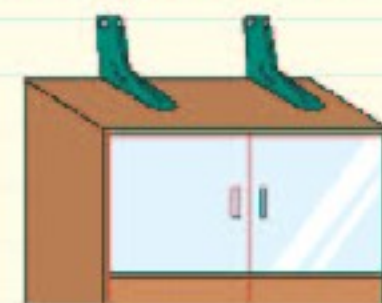
## 災害への備え

### わが家の安全点検を

地震対策の第一は、自宅の耐震診断を行い、必要な改修を行うことです。特に、昭和56年5月以前の旧建築基準で建てられた木造住宅は、必ず耐震診断を行いましょう。

第二に、家の中の危険箇所を点検しましょう。居間や寝室では、テレビやタンスが倒れてきませんが、台所では、冷蔵庫や食器棚が倒れ、食器が落ちて飛散しませんか。

危険と思われる家具などを固定し、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼って、被害を防ぎましょう。



### 事前の備え

日頃から食料と飲料水を備蓄しておきましょう。地震発生後、水道・ガス・電気などのライフラインはすぐには復旧しません。数週間も経たず、すぐに断水・断電。一人3日分を目安に準備しましょう。

食料や飲料水以外にも、医薬品、衣料、日用品などを非常用持ち出し袋にまとめ、非常時に備えておくことが重要です。

また、災害により家族が離ればなれになったときに備え、お互いの連絡方法や避難場所を話し合い、決めておきましょう。

小中学校や公民館などが市町村の避難所指定を受けています。自宅近くの避難所を確認しましょう。

## 地震発生!その時どうする



地震発生

### 自分の身を守る

転倒の恐れがある家具から離れ、机の下に身を隠す。あわてて外に飛び出さない。



### 出火防止・脱出口確保

ガスの元栓を閉め、コンセントを抜く。火が出たら落ち着いて初期消火に努める。ドア・窓を開けて脱出口を確保する。

### 揺れがおさまったら

### 家族の安全確認・余震に注意

倒壊しかけた家に近寄らない。隣近所に声をかけ、必要なら徒歩で避難。備蓄しておいた食料や飲料水を使用する。

### 生活の維持と回復

4日目以降も災害(余震)に注意し、情報の収集にあたる。復旧に向け努力する。

### 家の外では

路上で揺れを感じたら、その場に立ち止まらず、ガラスや看板などの落下物から頭を保護して、建物から離れた安全な場所に避難する。

ブロック塀や自動販売機には近づかない。デパート、スーパーなどでは、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をする。



大地震に対して、私たち一人ひとりが備えることは大切です。しかし、電気、ガスや水道が止まったり、個人の方ではどうにもならないことが起こります。また、被害が広範囲に及び、消防や警察による救助活動を期待できなくなるかもしれません。

近所の人たちみんなまで消火・救出活動をして、被害を最小限にとどめるよう協力し合うことが大切です。

次のページへ

